

会社概要

Company Profile

■ 会社概要 (2015年3月31日現在)

商号 株式会社UBIC (UBIC, Inc.)
 設立 2003年8月8日
 資本金 1,688,433千円
 所在地 〒108-0075 東京都港区港南二丁目12番23号
 連絡先 TEL : 03-5463-6344
 FAX : 03-5463-6345
 従業員数 191人 (連結)

■ 役員 (2015年3月31日現在)

代表取締役社長 守本 正宏
 取締役副社長 池上 成朝
 取締役^{※1} 舟橋 信
 取締役^{※1} 桐澤 寛興
 常勤監査役^{※2} 須藤 邦博
 監査役^{※2} 安本 隆晴
 監査役^{※2} 高井 健式

※1 社外取締役
 ※2 社外監査役

株主メモ (2015年3月31日現在)

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 3月31日
 そのほか必要がある場合は、あらかじめ公示いたします。
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載して行います。
 (公告掲載URL) <http://www.ubic.co.jp>

●株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

●特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

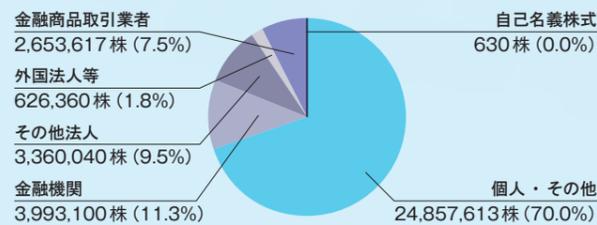
株式の状況

Stock Information

■ 株式の状況 (2015年3月31日現在)

発行可能株式総数 72,000,000株
 発行済株式の総数 35,491,360株
 株主数 14,201名

■ 所有者別株式分布状況 (2015年3月31日現在)



■ 大株主 (2015年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
守本 正宏	6,920,400	19.49
株式会社フォーカスシステムズ	2,984,720	8.40
池上 成朝	2,729,400	7.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,260,000	6.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,145,100	3.22
林 純一	600,000	1.69
日本証券金融株式会社	588,000	1.65
松井証券株式会社	473,900	1.33
神林 忠弘	429,800	1.21
カブドットコム証券株式会社	424,379	1.19

※持株比率は自己株式(630株)を控除して計算しております。

UBIC'S AI

人工知能のUBIC

第12期 株主通信

2014年4月1日から2015年3月31日まで

株式会社UBIC 〒108-0075 東京都港区港南二丁目12番23号
 TEL : 03-5463-6344 FAX : 03-5463-6345

UBIC 検索

<http://www.ubic.co.jp>

株式会社UBIC

証券コード : 2158

株主の皆さまへ

人工知能を核として
既存事業のさらなる成長と
新規分野の開拓で
持続的に成長していきます。

株式会社 UBIC
代表取締役社長
守本 正宏



当期を振り返って
2015年3月期（以下、当期）においては、米国市場での事業基盤の拡大をはじめ積極的に事業を展開してきた結果、連結売上高は6,274百万円（前期比50.4%増）、同営業利益は266百万円（864百万円増）、同経常利益は434百万円（1,063百万円増）、同当期純利益は260百万円（864百万円増）と、前期に比べ大幅に業績を拡大することができました。

しかし、業績予想との対比においては期末直前に下方修正を行っており、その最大の要因はディスカバリ事業の日本での売上が見込みと大きく離れたことでした。NASDAQ上場やブランディング活動を通して米国での当社の認知度は徐々に向上し、日本国内でも多くのお客様の信頼を得ていますが、日本企業からディスカバリ業務を請け負っている米国の弁護士事務所には選ばれないといった、これまでも直面してきた問題が引き続き起きたのです。

この課題を克服するためには市場の信頼を得なくてはならないと思い、国内では、当社の事業への理解を深めていただく浸透活動に取り組みました。その結果、従来と比較すれば当社への信頼は高まっています。しかしながら、依然として日本企業は米国子会社の判断に反対できずに米国弁護士が指定するディスカバリ支援企業を選ぶ状態が続いています。よって、決定権者である米国子会社から直接案件を獲得することが、当社のディスカバリ事業の拡大スピードを速めるという結論に至りました。

ディスカバリ事業の取り組み
米国での信頼・認知度を高めるために、現地子会社の設立、NASDAQ上場と段階的に手を打ってきました。そして、昨年は米国テクノロジー・ソリューションズ社（以下、TLS社）を買収したわけですが、これが予想以上の成果を、予想以上に早く挙げています。NASDAQ上場で信頼が高まり、そこにTLS社が販路として機能して大きな受注につながるなど、これまでの取り組みの積み重ねが花開いてきました。TLS社を含めた米国の売上が、当社全体の売上の半分以上を占めるところまで来ており、来期はさらに期待できるでしょう。

この成功には、もちろん当社の技術力も寄与していますが、現地子会社設立とTLS社買収を経て米国市場の環境に徐々に慣れてきたことも、案件獲得に寄与していると思います。外国企業買収が効果を生むまでには時間がかかることが多く、結果的に成功しないケースもあるなかで、当社のTLS社の子会社化は大成功と言えるでしょう。

ディスカバリ事業に関しては、国内・アジアでの活動も継続しますが、成長のドライバーは間違いなく米国です。そのため、今後も技術への投資は継続的に行いますが、それ以上にM&Aも含め、米国におけるさらなるブランドの確立と、プレゼンスを上げていくための活動に注力していきます。

人工知能をコア技術に新規分野で成長
このところマスコミが「人工知能」をテーマに取り上げ、当社もそれを扱う企業として注目されて

きていますが、私たちとしては、意図して人工知能を目指したわけではなく、創業当初から取り組んできたことが後になって人工知能として注目されるようになったという認識です。

当社の人工知能の特徴や強みを、投資家の方々や世の中に広く理解してもらうのはなかなか難しいのですが、一言で言うと「人の経験などに基づく『暗黙知』を活用する人工知能」です。一般的によくあるのは、「大量のデータを解析することによって賢くなる人工知能」ですが、当社の人工知能は少量のデータから専門家の勘やコツを学び、それを活用して課題を解決します。

当社の人工知能が「専門家の勘」のようなものだと考えると、応用できる分野は多いと考えます。なぜなら、いくら情報技術が発達しても、人間が見なくてはいけない部分は意外と多いからです。

具体例として患者さんの転倒・転落防止に関する研究をNTT東日本関東病院と共同で進めている件をご紹介します。医療従事者は、どの患者さんがいつ転倒するかを判断するために大量のカルテを解析しなくてはならず、多くの時間を要します。患者さんのリスクを下げられるために行う業務ですが、本来患者さんに直接「大丈夫ですか?」と手を差し伸べたいのに、それができずにデータの解析に時間をとられてしまうわけです。そうした膨大な作業を、医療従事者の暗黙知を学んだ人工知能が代行することにより、医療従事者は単純作業から解放され、代わりによりクリエイティブな仕事ができるようになるのです。

このように、UBICの人工知能は、人に寄り添い支援する人工知能です。人間の考え以上

のことはできませんが、その人のやり方や暗黙知をうまく学んで活用し、まるでその人のように、しかも疲れずに持続性を持って素早く判断してくれるのです。

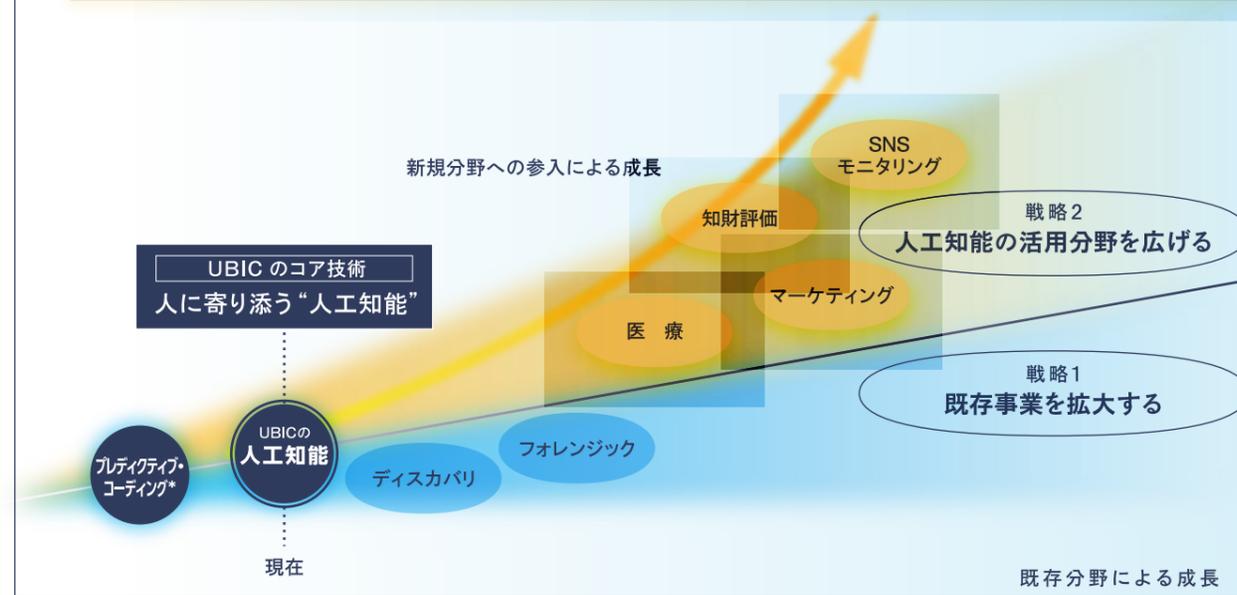
市場規模としては、非常に大きいと考えます。こうした暗黙知を基盤とした人工知能は、医学や法律など専門性が高い分野のみならず、営業、人事評価、マーケティングなど、あらゆる分野で応用できるからです。おそらくそれはビッグデータの市場規模に相当すると言ってもよいのではないのでしょうか。この中で、独自技術をもってソリューションを提供できるのは、今はUBICしかないと思っています。

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

UBICが目指す姿 MISSION 人工知能でよりよい未来を創造します



*UBIC独自の人工知能応用技術。弁護士などエキスパートの「暗黙知」を柔軟に学び、膨大なデータを効率的かつ合理的に処理する。

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

株主の皆さまへ

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

UBICの人工知能の可能性

2015年6月

連結財務ハイライト



UBICのお客さま

Intelligence Cloud
のお客さま

Panasonic
Empowered by Innovation

NEC
Empowered by Innovation

FURUNO

TPX
touching tomorrow, today

Lit i View
EMAIL AUDITOR
のお客さま

YAZAKI
TOYO TIRES
driving to per form

UBICのコア技術

人工知能とは、「コンピュータで人工的に人間の知能と同様の知能を実現するソフトウェアやシステム」です。



株式会社 UBIC 執行役員 CTO
武田 秀樹

革新的な独自技術で差別化を図ることが、当社の競争力につながると考えています。ユニークな人工知能で、便利で安全な暮らしの実現に貢献するために研究開発を積み重ねてまいります。

現在の人工知能に対するイメージは、以下の2つに分類されるのではないのでしょうか。

- 1 ある特定の目的で人間のように振る舞う「目的指向型」と
- 2 人間を超えてしまうかもしれないという「超越型」です。

この2つの分類に、体を持っているロボット、知能そのものを指すソフトウェア、という考え方を加えたのが下の図です。

この中でUBICの人工知能は「頼れるパートナー」に分類されます。



UBICの人工知能は、人から学び、調和を保って協働する

UBICの人工知能の働き方「暗黙知」を活用する！

- 1 人の経験・感覚・行動（暗黙知）をそのまま学ぶ
- 2 学んだ経験や感覚をもとに人に代わって、調べる・考える・判断する
- 3 その結果、人の経験や感覚に合った情報を発見することができる



メリット

- 人間の勘 で ビッグデータ を微妙なニュアンスで判別できる
- 高精度な 学習・判断 を継続できる
- ノートパソコン1台で扱えるほどコンパクトなので設備負担が軽減できる

伝達情報量というアルゴリズム手法で開発されているため、少量のデータから多量のデータの予測を行うことができる！



実用化の詳細は「人工知能の活用分野を広げる」をご参照ください。

戦略1 既存事業を拡大する

UBIC × TLS :
UBICの最新技術とTLS社のサービス・サポートをグローバルに展開



米国テックロー・ソリューションズ社 (TLS社) の紹介

2014年8月に当社の完全子会社となった米国 TLS 社は、ディスカバリ業界で30年以上の実績を持つ米国の老舗ディスカバリベンダーです。これまで数多くの法律事務所、企業、米国政府機関や地方自治体と取引を行ってきました。ディスカバリ業界が変化するなか、長年にわたって蓄積された経験を価値ある形で応用し、効率的に顧客に提供できる貴重な存在です。

Stephen Henn
CEO
TechLaw Solutions, Inc.

スティーブ・ヘン：米国リーガルテクノロジー業界の経営幹部として幅広い経験を持ち、大手ディスカバリ企業の社長兼 CEO を経て現職。シカゴ大学にて経済学の学士、コネチカット大学スクール・オブ・ローにて法務博士を取得

UBICグループによる子会社化と相乗効果

UBIC

- 世界に通用するプレディクティブ・コーディング*
- 英語、アジア言語解析の技術とノウハウ
- 24時間体制のグローバルオペレーション

TLS

- 30年以上の実績を誇る米国老舗ディスカバリ支援企業
- 米国企業・法律事務所との営業ハイライン
- 高い専門性、豊富な経験、高品質なサービス

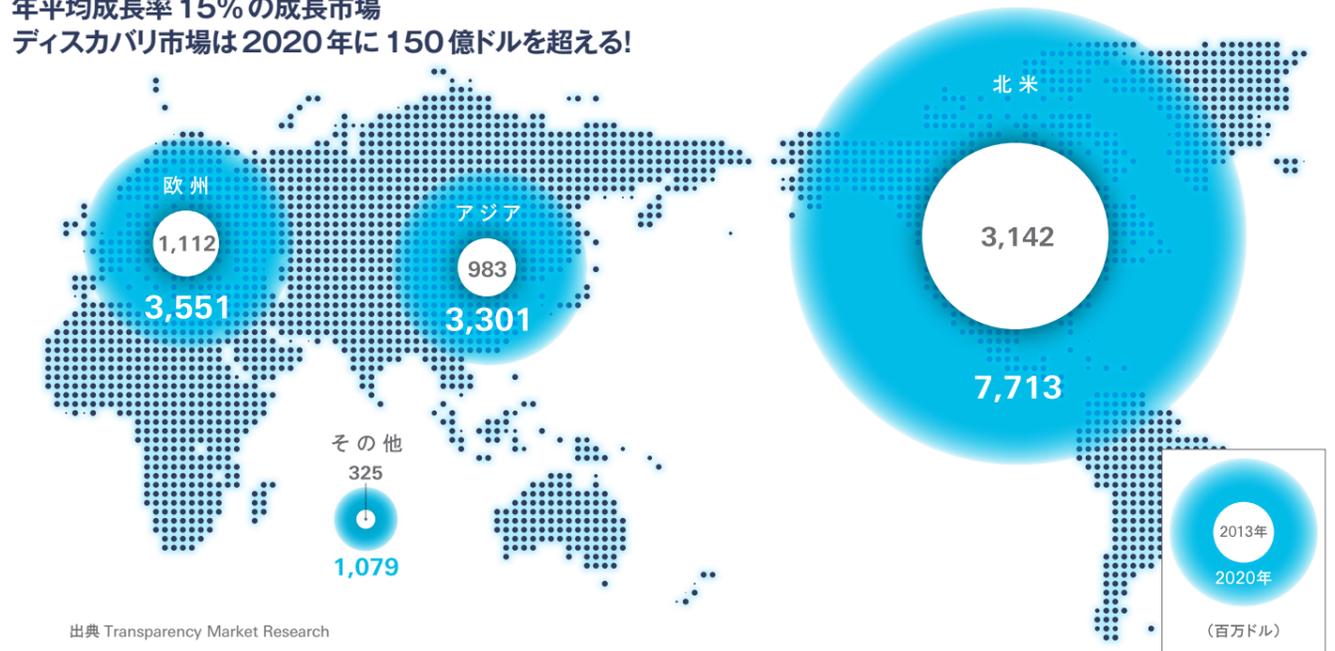
競争力を強化!

- 米国企業を中心とするグローバルな顧客開拓
- 重要な米国弁護士事務所との関係を強化し、日本企業の案件獲得を増加
- 市場ニーズを収集しやすくなり、さらなるサービス品質の向上を実現

* UBIC独自の人工知能応用技術。弁護士などエキスパートの「暗黙知」を柔軟に学び、膨大なデータを効率的かつ合理的に処理する。

ディスカバリ市場規模

年平均成長率 15% の成長市場
ディスカバリ市場は2020年に150億ドルを超える!



出典 Transparency Market Research

戦略 2 人工知能の活用分野を広げる

UBICの人工知能が実現する新たな世界

犯罪などの予兆を察知して事件の未然防止を可能にします！

課題 1 犯罪に関わる情報がソーシャルメディア上でやりとりされることが増えているなか、膨大な量の短い文章から危険度合いを判断することが困難……

ソリューショ

人工知能を使って短い文章でもその真意や危険度合いを評価することにより、調査官がどのコメントを優先して調査すべきかをリアルタイムで知らせます。

SNS解析ソリューション



UBIC 自社開発

NATIONAL SECURITY

日本を安全・安心な国にします

VDS

VIRTUAL DATA SCIENTIST

企業の訴訟支援から生まれたUBICの人工知能「バーチャルデータサイエンティスト (VDS)」は、専門家の知識を自動的に学習することによって、大量のデータの中から必要なデータを迅速・正確に選び出します。このUBIC独自の技術を様々な分野に応用することで安全な生活や企業の活性化を実現し、便利で豊かな暮らしを可能にします。新たな事業分野での応用は、将来的にUBICの業績にも大きなインパクトを与えることが期待されています。

250倍の速さで特許を調査します！

課題 2 特許を取得するにあたって、調査を行うべき技術情報が膨大になり大きな負担に……

ソリューショ

専門家の判断を人工知能に学習させて、優先的に調査を行うべき情報を自動で抽出することで、企業における調査費用と時間を大幅に削減します。

知財評価ツール

パートナー様



トヨタテクニカルディベロップメント株式会社

あなたが本当に見つけたい商品が見つかります！

課題 3 欲しい物を探す時、評価サイトや口コミサイトでは評価者の数や属性に偏りがあって、自分が欲しい物になかなか出会えない……

ソリューショ

利用者が選択したいくつかの商品から人工知能が嗜好のニュアンスを読み取り、インターネット上にある膨大なコメントの中から好みの商品を自動的に探し出して提案することができます。

デジタルキュレーションサービス

パートナー様



株式会社電通国際情報サービス

CONSUMERS

皆さまの暮らしを便利にします

病院内での患者の転倒・転落を未然に防ぎます！

課題 4 患者の高齢化が進むなか、ますます増える入院患者の転倒・転落を未然に防ぎたい……

ソリューショ

患者の電子カルテを人工知能が解析し、転倒・転落するリスクが高い患者を優先的に医療従事者に伝えて、発生数を低減することを可能にします。同時に、診療記録などの大量のテキスト情報の解析を自動化できるため、医療従事者が患者ケアにより専念できるようになります。

転倒・転落防止システム

パートナー様



NTT Medical Center Tokyo

NTT 東日本関東病院

1 SNS解析ソリューション

◆ 実証実験を開始

◆ 製品化 (予定)

2 知財評価ツール

◆ 共同開発を開始

◆ プロトタイプ完成 運用実験を開始

◆ 製品化 (予定)

3 デジタルキュレーションサービス

◆ 共同開発を開始

◆ 製品化 (予定)

4 転倒・転落防止システム

◆ 共同開発を開始

◆ 運用実験を実施

◆ 導入開始 (予定)

2014 2015

2015年6月

2016